

本定例会中に各常任委員会を開催し、決算認定や補正予算等の付託案件の審査を行いました。審査における主な質疑は次のとおりです。

総務文教常任委員会

質問 市の正規職員の減少に対して臨時職員数は増加しているようだが、その事情は。

答弁 行政サービス維持のために必要な職種等、特定業務の臨時職員が増えている状況である。具体的には学校の教育補助員、あるいは保育園での延長保育や未満児保育の対応等の理由が挙げられる。



質問 高齢化の進行が著しい過疎地域への支援策や、今後の公民館体制について伺う。

答弁 今年度、集落見まもり隊事業を新たに開始したが、まだいろいろな支援策が必要と考えている。過疎、高齢化の進む地域をどう

支えていくかについては、公民館体制だけでなく福祉的な部分も含まれることから、地域の実態を関係部署で把握する中で、総合的な支援策を考えていきたい。

質問 財政状況が厳しい中、ふるさと同窓会応援事業について批判的な市民意見もあるが、市はどのように考えているか。

答弁 当事業は、定住施策やふるさと糸魚川応援寄附金の紹介をしながら、ふるさとへの思いを強めていただき、定住促進を図っていくことを目的としている。また、同窓会の開催を促すことにより市内の経済活性化に寄与するものと考えている。



ふるさと糸魚川応援寄附金のパンフレット

建設産業常任委員会

質問 谷村美術館と翡翠園の今後の活用策について伺う。

答弁 両施設は観光業界やいろいろな方から評価を得ているが、しばらく休館していたことが響き、入館者数の伸びにはつながっていない状況である。施設と市が一体となつて誘客に努め、活用していきたいと考えている。

質問 ワークライフバランス推進事業の利用状況は。

答弁 当事業の利用実績は平成23年度、平成24年度ともに、育児休業の代替要員の確保等で数件である。当事業の利用促進に努めているところであるが、事業当初に活用が期待されていた中小企業による利用がない中、来年度に向け見直しを進めている状況である。

質問 観光誘客宣伝事業について、北アルプス日本海広域観光連携協議の活動状況を伺う。

答弁 北アルプス日本海広域観光連携協議では「いかにお客様に来ていただく」、という観点で関係団体と協議を進めている。加盟団体が連携・協力をしながら、魅力ある商品づくり、エージェントへの誘客活動に力を入れるような方向に持っていきたいと考えている。

ただ「か」という観点で関係団体と協議を進めている。加盟団体が連携・協力をしながら、魅力ある商品づくり、エージェントへの誘客活動に力を入れるような方向に持っていきたいと考えている。

質問 旧北陸本線の旧親不知トンネルの活用の検討が進められているが、このトンネルの評価について伺う。

答弁 トンネルは一般的にコンクリート構造が多い中、このトンネルは内部も全面がレンガでできており、また、蒸気機関車が走っていた当時の煤煙の跡なども残っていることから、歴史的な価値も十分あると考えている。



旧親不知トンネルを探访 (8月24日)